

平成 19 年 4 月 13 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 フ ジ ト ミ
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 奥 田 啓 二
 (JASDAQ・コード 8740)
 (問 合 せ 先) 経 理 部 長 新 堀 博
 電 話 03-3209-5500

平成 19 年 3 月 期 (連 結 ・ 単 独) 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 19 年 1 月 18 日 付 「平成 19 年 3 月 期 (連 結 ・ 単 独) 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ」
 で 発 表 い た し ま し た 業 績 予 想 を 下 記 の 通 り 修 正 い た し ま す。

記

1. 平成 19 年 3 月 期 通 期 (連 結 ・ 単 独) 業 績 予 想 の 修 正

(1) 連 結 業 績 予 想 (平 成 18 年 4 月 1 日 か ら 平 成 19 年 3 月 31 日) (単 位 : 百 万 円)

	営 業 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	2,984	△100	△80
今 回 修 正 (B)	2,581	△436	△527
増 減 額 (B-A)	△403	△336	△447
増 減 率	△13.5%	—	—
(ご 参 考) 前 期 (平 成 18 年 3 月 期) 実 績	3,564	320	254

(2) 単 独 業 績 予 想 (平 成 18 年 4 月 1 日 か ら 平 成 19 年 3 月 31 日) (単 位 : 百 万 円)

	営 業 収 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	2,004	△280	△220
今 回 修 正 (B)	1,659	△597	△629
増 減 額 (B-A)	△345	△317	△409
増 減 率	△17.2%	—	—
(ご 参 考) 前 期 (平 成 18 年 3 月 期) 実 績	3,039	510	395

2. 修 正 理 由 等

商品取引所法改正等による勧誘規制強化などの影響を受け、当期の全国商品取引所の出来高合計は 8,510 万枚(前年同期比 21.1%減)と 3 年連続で減少となり、商品先物市場の規模縮小が続いております。特に、下半期(平成 18 年 10 月～19 年 3 月)の全国商品取引所の出来高合計は 3,745 万枚(前年同期比 32.6%減)と、当社の予想を上回る市場環境の厳しさとなりました。

このような環境の中、当期の当社グループの業績は、9 月中間期までは金・プラチナの活況による貴金属市場の受取手数料の増加や農産物市場を中心とした自己売買部門の好調により、前年を上回る実績となっておりますが、10 月以降は市場環境の変化に伴い、受託業務、自己売買業務共に苦戦を余儀なくされました。

子会社丸梅㈱は、得意の穀物を中心に健闘し通期黒字を確保しましたが、当社は、10 月以降、金・プラチナの取扱減少を埋める取扱商品を見出せず、また、自己売買部門においても上半期の利益の半分近くを失うなど厳しい状況が続きました。

この結果、当期の当社グループの受取手数料は 2,094 百万円(前期比 29.0%減)、売買益は 487 百万円(前期比 18.4%減)と大幅な減収となり、当期の連結業績は上記(1)、単独業績は上記(2)の通りとなる見込みであります。

なお、連結の税金等調整前当期純損失は 341 百万円、単独の税引前当期純損失は 502 百万円の見込みですが、商品先物市場の環境変化を踏まえ、当社の繰延税金資産の評価を厳格化したことにより、連結・単独ともに税引後の当期純損失が税引前の金額を上回っております。

以 上